

<景観作物による交流事例>

○農業生産法人への農地集積とヒマワリでの都市農村交流

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	広島県 <small>はつかいちし</small> 廿日市 <small>よしわ</small> 市吉和・細井原 <small>ほそいばら</small>			
協定面積 7.1ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稻・景観作物			
交付金額 102万円	個人配分			50%
	共同取組活動 （50%）	農道・水路・農地等の維持管理		25%
		災害復旧積立		25%
協定参加者	農業者 8人，農業生産法人1法人			

2. 取組に至る経緯

当地域は多数の観光施設があり，年間40万人の観光客が訪れる。

しかし，地域内では農業者の高齢化及び農業後継者が不足し，農地の荒廃が懸念されていたので，当集落を含む吉和地域全体で集落農場型農業生産法人を設立した。

また，後継者を育成し，農地を集積し農地の保全をしていくとともに，都市と農村が交流し地域の活性化を図るため協定を締結した。

3. 取組の内容

- ・ 農業生産法人への農地の集積により担い手の確保と営農体制を整備し，農地の保全を行う。
- ・ 花のある吉和づくり実行委員会と連携し，景観作物（ヒマワリ1.5ha）の作付をし，観光資源として都市と農村の交流の場としている。

ヒマワリの作付は地域外からボランティアを募集し，種まきを実施した。また，小・中学校の総合学習で「ひまわり学習」を実施した。



ボランティアによるヒマワリの種まき



ひまわり学習



5万本のヒマワリ畑



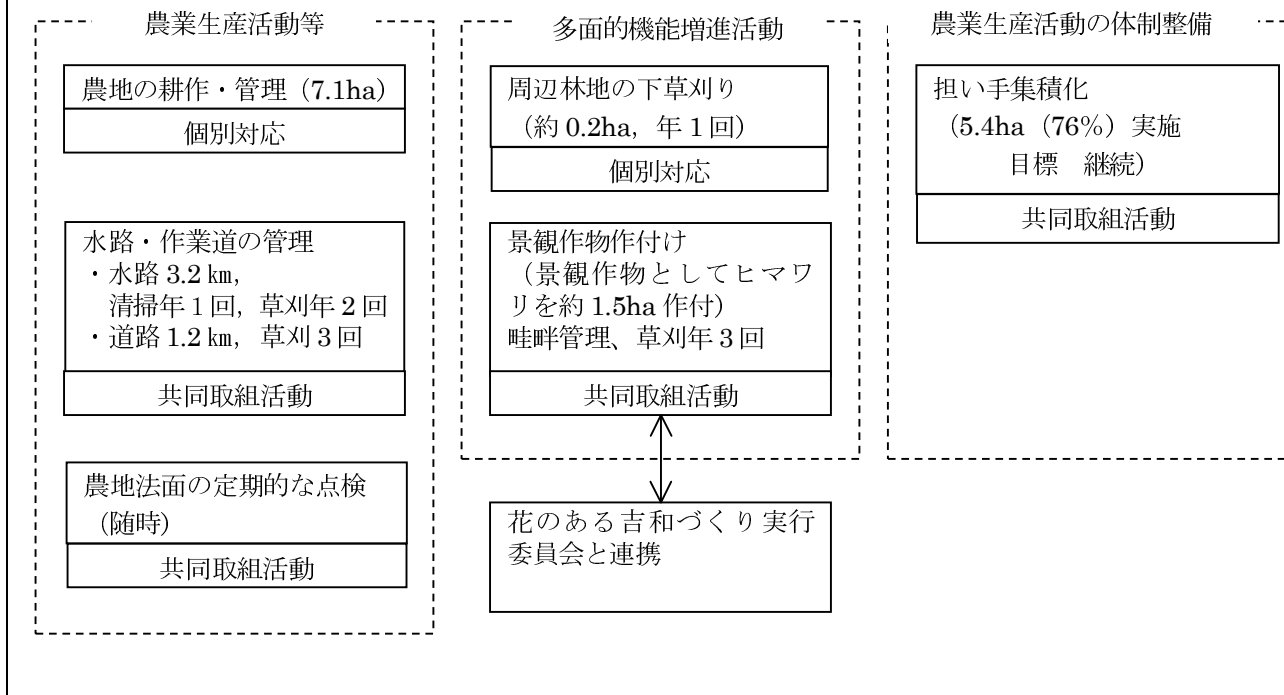
[集落の将来像]

○ 当集落では農業生産法人と連携を取り農地を集積することで、農地の有効利用や農地の保全に努め、活力のある農業を展開するとともに、景観作物の作付を通じて都市と農村の交流の場としていく。

[将来像を実現するための活動目標]

- 毎年一回は全体の水路清掃を実施し、各自で水路の管理をする。
- 農道・農地畦畔の管理は協定参加者（農地所有者）と農業生産法人が連携を取り、草刈等の作業を実施する。
- 花のある吉和づくり実行委員会と連携し、景観作物(ヒマワリ)を作付し、都市農村交流を図る。

[活動内容]



集落外との連携

○ 花のある吉和づくり実行委員会と連携を図り、景観作物を作付することで、集積した農地を都市と農村の憩いの場として利用することで、地域の活性化を推進している。

4. 取組による変化と今後の課題等

農業生産法人へ集積がされていない農地も、現在所有者により耕作されているが、高齢化が進んでいるため、今後農業生産法人へ加入により農地集積をする必要がある。

[平成 20 年度までの主な成果]

- 担い手への利用集積による体制整備 (実施 5.4ha (76%), 目標 継続)
- 都市との交流による地域の活性化
 - ・ 花のある吉和づくり実行委員会 (ヒマワリの種まき) 参加者 (60 人(H17)80 人(H18)80 人(H19)100 人(H20))
 - ・ 「吉和夏祭り」と「ひまわり畑」のタイアップによる参加者増 (4 千人(H17)4 千人(H18)4.5 千人(H19)5 千人(H20))
- 小・中学校一貫教育で総合的学習「ひまわりプロジェクト」を実施し、2 区画を利用し種まきや除草作業、種実の収穫までの学習を実施。